



鹿屋市立 西原台小学校

児童数 568人
学級数 26クラス



《テーマ》

「多様な性の在り方について理解を深める」

研究に当たって（テーマ設定の理由）	研究スケジュール
時代が変化していく中で、多様な性の在り方について職員が理解を深め、これからの時代を生きていく子どもたちに正しい知識を持って指導を行うため。	6月21日（月）職員研修 （人権教育に関する基本的知識・Mom） 11月8日（月）職員研修 （多様性を認める学校づくり・同和問題） 11月8日（月）人権教室（5年児童全員）

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

- 『自分の「性」について考えよう』（5年児童全員）
児童は「身体の性」、「心の性」、「好きになる性(性的指向)」は、人それぞれ違いがあることを学ぶことができた。
- 校内人権週間と人権（なかよし）集会
校内人権週間を設定し、各学年で人権をテーマに授業を行うとともに、学年掲示板に感想等を掲示した。週間中には全校で「なかよし集会」を実施。今年度はオンライン配信により各教室で、低・中・高学年の子どもの作文発表や職員による絵本の読み聞かせ（劇）を視聴し、感想を話し合ったり、振り返りをしたりした。あわせて、校内に人権コーナーを設置し、ポスターや標語、作文等の掲示を行い、意識付けを行った。
- 「にこっ DAY」の取組
毎月25日を「にこっ DAY」として設定し、人権同和教育係から、職員向けの資料を発行し、学年会等で話題にしている。



【6/21 子どもの人権プロジェクト】



【11/8 自分の性について考えよう】

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの姿、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 「自分の『性』について考えよう」での授業後、人それぞれにある個性のように、「性の在り方」もさまざまであることに気づくことができる子どもたちが多くいた。
- 校内人権週間の取組（人権集会や授業、掲示等）により、友だちとの関係や自分の行動を振り返って感想を書いたり、日記を書いたりする子どもがいた。
- 「にこっ DAY」の資料作成を、人権同和教育係で分担することで、いろいろな視点からの資料が発行され、職員の意識が高まっている。